

はまべのうたキッズ



鷹巣西小学校



合川中学校



あかしや合唱団



また、1部・2部とも、安保氏・斎藤氏による記念演奏と橋本氏による講評が行われました。

音楽祭の最後には、橋本氏の指揮で、出演者全員と会場のお客さんとが一体になって、浜辺の歌」を合唱し大団円となりました。

優れた歌曲を歌い継いで
美しいハーモニーが溢れるまちど

第3回浜辺の歌音楽祭 加賀隆寛実行委員長
が11月1日、市文化会館で開催され、児童生徒やコーラスグループが成田為三の楽曲や趣向を凝らした合唱曲を発表、たくさんのお客様の前に美しい歌声を響かせました。

主催は市教育委員会。「浜辺の歌」をはじめ、優れた童謡などを数多く作曲し、日本を代表する作曲家として知られる米内沢出身の成田為三(1893-1945)を顕彰するとともに、歌声のあふれる活気あるまちどづくりにつなげることを目的として開催されている音楽祭です。

今年の音楽祭には、保育園児から、小中学校、一般のコーラスグループなど21団体が参加約750人が出演しました。

開会式で三澤仁教育長は、美しい歌は心の中に響いていく、心が洗われたような気持ちになる。歌は不思議な力をもっていて、悲しいときに歌を歌うと悲しみは半分になる。嬉しいときに歌を歌うと嬉しさは何倍にもなる。私たちが生活の中で歌や音楽は欠かせないもの。今日は、みなさんの歌声を聞くことをとても楽しみ

にしている。緊張しないで大きな声で美しい歌声を響かせてほしい」とあいさつ。

また、加賀実行委員長が、講師で大館市出身の作曲家・橋本祥路氏、記念演奏者で鹿角市出身の声楽家・安保克則氏、能代市出身で合川高校講師の斎藤麗香氏を紹介したあと、午前・午後の2部構成でプログラムが始まりました。

午前中の第1部には、浦田保育園「鷹巣中央保育園・鷹巣東保育園」はまべのうたキッズ「鷹巣西小学校」米内沢小学校など10団体、午後からは「合川中学校」「コールもりよし」「あかしや合唱団」「鷹巣混声合唱団」など11団体が出演。各団体は、「赤い鳥小鳥」「浜辺の歌」など為三が作曲した曲1曲を含め、それぞれ2曲から3曲を発表しました。

オープニングを飾った浦田保育園の発表では、園児と母親と一緒に「兎踊り」「小さな世界」を合唱、時折、隣にいる母親と目を合わせながら大きな声で歌い会場をアットホームなムードに包み込みました。また、鷹巣西小学校の発表では、演歌歌手・氷川きよしの「きよしのズンドコ節」を鷹巣西小版にアレンジした「鷹巣西っ子ズンドコ節」を発表、おなじみの歌詞とリズムに合わせ振りつけし、会場を盛り上げました。

受章おめでとございます

政府は3日、平成20年秋の叙勲受章者を発表しました。北秋田市からは、消防功勞で元森吉町消防団長の北林照吉さんが「瑞宝双光章」、へき地保健衛生功勞で元秋田県保健師の尾久ヨシ子さんが「瑞宝単光章」を受章されました。

また、10月31日には平成20年度秋田県文化功勞者の表彰式が県正庁で行われ、北秋田市の中嶋喜代さんが児童の健全育成・民生活動での功勞により寺田知事から表彰を受けました。

3人の経歴と功績をご紹介します。

瑞宝双光章



北林 照吉 さん
(米内沢・73歳)

- 消防功勞 -

農協に勤務するかたわら、昭和33年1月に旧森吉町消防団に入団し、班長、部長、分団長を経て平成4年1月から15年12月まで団長を務め、平成2年には消防長官永年勤続功勞章を受章されています。

現役時代は、不足だった団員の確保、消防技術のレベルアップ、訓練日当の導入やポンプ車の更新などの環境改善をはじめとする多くの取り組みで消防団活動の向上にまい進されました。

特に平成4年から退団するまでの11年間は、森吉町消防団長として森吉町消防団7分団を束ね指揮、指導されるとともに消防施設の拡充を訴えて実現させました。

この間、昭和47年の阿仁川の洪水では、腰まで水に浸かりながら住民の避難を誘導するなど献身的に消防人としての使命を尽くされました。

退団後は農業に専念するかたわら、自治会長、農業委員など多くの役職を歴任、頼られる存在として地域に貢献されています。

瑞宝単光章



尾久 ヨシ子 さん
(栄字中綱・71歳)

- へき地保健衛生功勞 -

秋田県保健師として36年間、結核予防などでへき地の健康を支えました。

東京の看護学院を卒業後、昭和34年に看護婦として学院系列の病院に勤務昭和36年、秋田県立保健婦学院に進むため退職。37年に保健婦(師)として鷹巣保健所に配属され活動をスタート、以後鷹巣、大館両保健所に勤務、管内のへき地保健衛生の向上に尽力され、平成10年に鷹巣保健所の健康課長補佐で退職されました。

現役時代は、交通事情が悪かった当時から管内全域、旧鷹巣や森吉、阿仁町の奥深い集落にも何度も足を運んで保健指導にあたりました。

「現在の杣温泉周辺の集落にトロッコ(森林軌道)で訪問したこともあった怖い思いもしたが、懐かしい思い出」と尾久さん。

かつては結核予防対策が大きな課題でしたが、その後精神保健衛生の仕事にも携わり、現在は地域活動支援センター・あんずで指導員として活動されています。

秋田県文化功勞章



中嶋 喜代 さん
(住吉町・87歳)

[児童の健全育成]
・民生活動

昭和28年に現在の子ども会の前身となる「子どもを守る会」を町内に結成、母親が連携して子ども会を育成する基盤を築き上げ、昭和30年から30年間にわたり青少年健全育成鷹巣町民会議の会長を務めるなど児童の健全育成に貢献しました。

また、鷹巣町婦人団体連絡協議会長として鷹巣中央公園でのあじさいの植樹・育成(昭和55年)をはじめ、まちづくりイベント「ふるさと踊りと餅つき祭り」(昭和60年)の開催を主導し、観光・物産振興などで地域の活性化に寄与されました。

このほか鷹巣町商工会初代女性部長として商工振興、後継者育成に取り組みされたほか、多くの役職を兼任され、健康づくり、交通安全等の民生活動など多方面で活躍されています。

さらに、昭和59年には鷹巣町女性史研究会を設立し、郷土の発展のために尽くした女性について研究活動が続けられ、これまで「鷹巣町婦人会史」など4冊の研究書を発行しています。